

大雨・暴風に備えよう！

8月下旬以降は、秋雨前線や台風が発生しやすいため、大雨や暴風など気象災害への警戒が必要です。また、暴風雨による停電や断水の発生も懸念され、長期に及ぶと営農に大きな支障をもたらします。

いざという時のために、平常時からの備えと悪天候の予報が出た際の対応について確認するとともに、ケガや事故のないように注意しましょう。尚、風雨がひどくなってからの外作業はせず、天候が落ち着いてから対応しましょう。

1 平常時からの備え

- (1) ラップサイレージなどの飼料は滞水の恐れのない場所に保管するか、水が寄らないように明きよを掘っておく
- (2) 畜舎や付帯施設を点検の上、強風等による倒壊、破損がないよう補修する
- (3) 停電に備え、自家発電機の燃料や動作の確認を行う。自家発電機がない場合は、停電時の自家発電機の手配について確認を行う
- (4) 停電に備え、懐中電灯の点灯を確認するとともに、予備電池の準備やモバイルバッテリーの充電を行う
- (5) つまづきなどの事故予防のため、畜舎、処理室などの整理整頓を行う
- (6) 断水に備え、給水タンク等の準備、または準備方法の確認を行う

2 天候悪化（大雨、暴風）の予報が出た時の対応

- (1) スコップや一輪車など風で飛ばされそうなものは、屋内に移動する
- (2) ハッチなど風であおられそうなものは、重しをするなどの対策を行う
- (3) 石灰資材類や漏電の危険がある電源コードなどは、風雨で濡れることのないように屋内に移動するか防水対策を行う
- (4) シャッターや扉は、雨の吹き込みや風であおられないように閉めておく
- (5) 放牧牛は牛舎に収容する。やむを得ず放牧する場合は、氾濫する危険がある河川周辺の放牧地は避け、なるべく目の届く放牧地を使用する

3 天候が落ち着いてからの対応

- (1) 牛舎施設やほ場（草地・飼料用とうもろこし）、貯蔵飼料に異常がないかを点検、確認を行う。異常があった場合は、状況に応じた対策を講じる
- (2) 牛の体調を確認し、異常牛は速やかに獣医師に診察を受ける
- (3) 停電が発生していた場合は、通電後、電気を使用する機器類（ミルクカー・バルクなど）の作動を点検し、正常に稼働するか確認を行う。また、搾乳時の前搾りで凝固物（ブツ）の有無を確認する
- (4) 断水の復旧後は、使用する前に水に濁りがないかを確認する

まだまだ暑い日が続いています、乳生産を低下させないよう、暑熱対策も引き続き行っていきましょう！！ こちらのQRコードをチェック

